



馬酔木通信

43

号

2024年7月

Enjoy your campus life!!



INDEX

学長からのメッセージ	2	地域・国際連携センター	10
トピックス	3	防災・環境委員会	10
生活未来科	4	キャンパスライフ	11
地域こども学科	5	生活未来科・学生レポート	12
学生・キャリア支援センター	6	地域こども学科・学生レポート	13
障害学生修学支援センター	6	留学生の声	14
教育支援センター	7	学友会	14
IR推進室	7	FD委員会	15
情報メディアセンター	8	SD委員会	15
入試・広報センター	8	同窓会 あせび会	16
子育て広場	9	奈良佐保の取り組み(新聞掲載) ① ..	16
図書館	9	奈良佐保の取り組み(新聞掲載) ④ ..	19



変化の激しい時代を生き抜く力

学長 池内 ますみ



新型コロナウイルス感染症が終息に近づき、本学にもやっと以前の日常が戻ってきました。10月28日には4年ぶりの大学祭を開催することができました。

コロナ前とは少し違った形でしたが、在学生はもちろん、多くの卒業生が佐保に帰ってきてくれて、ともに楽しい1日を過ごすことができました。

一方で、アフターコロナの社会は変化の速度が増し、日本全体がその厳しい状況に直面しています。

変化が予測不可能な時代となり、常に時代に取り残されないための改革が求められています。

中央教育審議会の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」の中で、高等教育機関が目指す姿は、新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動をとる力、すなわち「変革を起こすコンピテンシー」を有する人材の育成であるとされています。

社会の変化に対応するために、基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な機能を持ち、その知識や技能を活用でき、ジレンマを克服することも含めたコミュニケーション能力を持ち、自律的に責任ある行動をとれる人材を養成しなければなりません。そのためには、「個々人の可能性を最大限に伸長する教育」が必要となります。

学生が身につけるべき力は、教養教育と専門教育の双方を通して、さらに、学生の自主的活動等も含

む教育活動全体を通して育成されていくものです。

本学が教育理念に掲げる「自律する人、自己と他者を尊重する人、事象に自ら関わる人」を育成することが、激しい変化の中で予測不可能な社会に適応し、社会を支える人材育成につながるのだと信じています。

2024年元旦に発生した能登半島地震では甚大な被害が発生しました。それまであたり前に過ごしていた生活が、一瞬にしてできなくなってしまいます。

このような自然災害や新型コロナウイルス感染症の蔓延など、世界規模で想定外の事象が発生しています。予測不可能な時代にあって、高等教育機関は、学修者が自らの可能性を最大限に発揮するとともに、多様な価値観を持つ人材が協働して社会と世界に貢献していくため、学修者にとっての「知識の共通基盤」となる必要があります。

本学が1931年の設立以来取り組んできた教育は、まさに建学の精神に掲げる「地域で活躍する人材の育成」です。

年度末に開催される2年間の集大成となる両学科の成果報告会では、大きく成長した学生の姿を見ることができました。また、生活未来科の成果報告会「生活と未来～知ろう 考えよう福祉の今後～」では、第1部の研修会で、福祉現場で活躍している卒業生によるトークセッション「つながる・ひろがる〇〇の未来～ナラサホでの学びを活かして～」を開催、4名の卒業生が本学卒業後に取り組んだことを熱い思いで語ってくれました。

社会に飛び立ち活躍する卒業生たちから、母校への力強いエールを受け取り、胸が震える瞬間でした。

奈良佐保短期大学は令和7年度以降の学生募集停止を決定しましたが、令和6年度入学生全員が巣立つまで、高等教育機関としての責務を全う致します。



2023年度大学祭の様子

コロナ禍が明け、大学行事だけでなく地域の行事等、様々な活動が復活してきました。行事に向けて皆で知恵を出し合い形にできた時の達成感をそして、来場者の方と積極的なコミュニケーションを通して、関わった学生だけでなく教職員も共に人と関わることの楽しさを味わい、多くのエネルギーや今後に繋がる気づきをいただきました。

2023年度を取り組みをご紹介します。

大和鉄道まつり2023

2023年8月5日(土)6日(日)に奈良県コンベンションセンターで開催された大和鉄道まつりに出展しました。昨年度からはじまったこの奈良県最大の鉄道イベント、鉄道を通して地域を、この奈良の地を盛り上げようと企画されました。

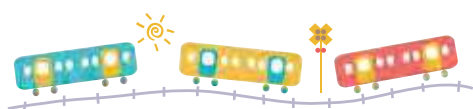
実行委員長は、ビジネスキャリアコースのインターンシップでお世話になっている「なら歴史芸術文化村」総括責任者・福原稔浩氏です。福原氏より今年度も参加することもたちが楽しめるような企画をと依頼され、両学科でタッグを組み、出展内容の検討、そして役割分担し参加しました。

ブースでは、地域こども学科とビジネスキャリアコースの学生による牛乳パックでオリジナル電車を製作するクラフトコーナーの運営、食物栄養コースの学生による手作りスイーツ・学内農園で収穫した採れたて野菜の販売行い、ステージでは地域こども学科の学生によるダンス、そして大学・ブースPRなどを行いました。

昨年はコピー用紙で電車を折るところから始めましたが、子どもには製作が困難だったこと、そして強度が弱かったことから今年は牛乳パックを使用することに変更。クラフト用の牛乳パックは学内に呼びかけ回収し準備しました。

オリジナルの電車を作って、写真撮影と製作しているこどもたち、そして同じ目線で対応する学生たちの笑顔、スイーツ、野菜販売コーナーには昨年美味しかったからと立ち寄って下さるお客様もいらっしゃりブース全体2日間盛況のうちに終了しました。

8月5日は大学でオープンキャンパスも実施していたので、午後からは会場と大学の講義室を中継で繋ぎ、オープンキャンパスに参加した高校生やそのご家族にも会場で活躍している学生の様子を見ていただいたり、声を聴いてもらえたりとナラサホの地域活動をリアルに体験していただく機会となりました。



親子学習イベント 福祉のお仕事研究会

2023年9月23日(土)24日(日)に令和5年度奈良県介護人材確保支援対策事業の一環で大和郡山市のイオンモール大和郡山3階フードコート前のイベントスペースで、親子で福祉のことについて学んでもらうための「福祉のお仕事研究会」を開催しました。

福祉・介護の仕事がなぜ必要なのかを学んでもらうために、高齢者や障がい者の身体状況の違い知るための疑似体験、様々な目的の車椅子・杖などの使用、介護食を試食してみたりした上で5問のクイズにチャレンジしてもらい、福祉に関わることの理解を深めていただきました。

奈良自動車学校にもご協力いただき、遠隔地の高齢者に生活物資や薬を届けるために導入されはじめたドローンの紹介などもしていただきました。

2日間、545名の方にクイズに参加していただきました。親子を念頭においた企画でしたが、家族で、そしておばあちゃんと一緒に、そして小中高生同士で、また高齢者の方も今後どうなるか知っておきたいわと老若男女問わず多くの方にご参加いただきました。

クイズの企画、そして会場運営にはビジネスキャリアコースの2回生が協力してくれ、参加者の状況に応じて目線や話すスピード、解説の方法を変えるなどインターンシップで培った力を発揮してくれました。

2023年11月26日(日)には、お仕事研究会の第2弾として、本学の622教室で楽しみながら福祉・介護について学ぶイベントを開催し、親子、そして福祉施設の利用者さん、職員さん、地域の方144名の方に参加していただきました。

第1部は「地域に元気の輪を広げよう」と題し、日本で唯一の“お笑い理学療法士”日向亭葵氏をお招きし、オリジナル体操や落語を取り入れながら、高齢者の身体状況の変化やそれを防ぐためのコツなどを教えていただきました。

第2部は実母を介護された経験のある俳優の野村真美氏、奈良で活躍されている芸人のサルイン氏やもち氏を招いてのトークショーを行いました。介護の仕事の必要性や尊さなどそれぞれの経験談やまた会場の方の声も交えながら知っていただく、また考える時間になりました。福祉や介護に関する内容でしたが、エアリハビリで身体を動かし、時にドカーンと大きな笑いも起こるなどあっという間に時間が過ぎました。



卒業研究発表会

生活福祉コースでは12月26日(火)に卒業研究発表会を開催し、2回生が事例研究または卒業研究を発表しました。

事例研究は介護実習Ⅲで介護過程を展開した中での学びをまとめたものです。2年間で行う452時間の実習の総まとめである介護実習Ⅲでは、介護者としての役割を学ぶ中で、一人の利用者を担当し個別介護計画を立案し実施します。利用者が何を望んでいるのか、現在の身体や心の状態はどうか、今までどのような生活をしてきたかなど、様々な情報を集め、分析・統合して生活課題を導き出し、その課題をクリアするために計画を立てて介護を行います。

根拠に基づき、考え抜いて介護を実践することが介護福祉士に求められており、その重要性を学生は体験を通して学んできます。その学びを文章化する過程でさらに考えを深め、それが自身の介護観となり、卒

業後の介護現場での実践の糧となります。

卒業研究発表は、得意分野をもった介護者となるべく、地域・防災福祉フィールド、障がい者福祉フィールド、介護予防フィールドで自分自身の研究テーマを追求したものを発表しました。

当日は学生や教職員に加え、実習施設の指導者にも参加していただき、学生の発表に対して講評をいただきました。Googlemeetを活用して配信することで、来場がかなわなかった実習指導者や学生の保証人にも発表の様子を見ていただくことができました。



奈良県中央卸売市場「冬の市場まつり」に出店!!

2023年11月19日(日)に、奈良県中央卸売市場で4年ぶりに行われた「冬の市場まつり」に食物栄養コースのフードビジネスフィールドの学生たちが出店し、「甘熟プルカキ丼」を販売しました。

人参と玉ネギを先に炒め、完熟したプルプルの富有柿の甘味を活かした特製タレに漬けた下味を付けた牛肉とキノコを加えて、さらに炒めます。そこに別で蒸した豆もやしとニラを加えます。この工程により、それぞれの食材の食感や彩りが楽しめる、老若男女の方々に喜んでもらえる優しい甘さで野菜たっぷりの、ナラサホらしいプルコギ丼が出来上がります。



学生たちはこのイベントに向けて、自分たちで案を出し、試作を繰り返し、自慢のレシピを完成させました。

また、市場の方に食材をお願いし、看板も作り、前日には食材の下処理をし、当日は朝早くから準備と調理、そし

てたくさんの方々への接客と料理の提供を経験しました。これらはコロナ禍で学生たちが中々経験することが出来なかったことばかりです。

お祭り会場では、出店している他大学も参加しての「大学生の自慢料理コンテスト」も実施され、試食していただいた審査員の方々からも好評を得て、郡山市長賞を頂くことができました。

自分たちが考え、準備し、提供した料理が、たくさんの方々に大好評だったので、学生たちにも笑顔があふれ、心地よい疲労感と共に達成感のある充実した一日になりました。



2023年度 ベスト・トピックス

ビジネスキャリアコースにおける今年度ベスト・トピックスをご紹介します。

まず1回生は2024年2月12日(月)～16日(金)に平城宮跡歴史公園内道の駅、レストラン、カフェに加え本年は観光案内所、VRシアター、さらに団体バスのお迎え・お見送りなど多彩なバリエーションのお仕事を体験。

園内巡回では「尋ねられる前にこちらから話しかける」ことで顧客の潜在ニーズや不満を発見し、バスで出発する小学生たちからいただいた「ありがとうございました!」の満面の笑顔。すべての経験が今後の就活や将来の職場で直接生かせる貴重で価値の高い実習となりました。

また2回生は2024年2月3日(土)開催の「生活未来科 成果発表会」にて1.2回生時の振り返りおよび代表者による卒業研究の発表を行い「若者のクルマ離れと自動車業界の動向」「コーヒーに求められ

ていること」「サンリオのキャラクター人気の変遷」「マッチングアプリの背景」など例年を上回る個性的なテーマと緻密なインタビュー・分析を駆使し、学生各位のリサーチ&プレゼンテーション能力にさらなる飛躍が感じられました。

このようにビジネスキャリアコースは今後も授業での「リサーチ、スピーチ、ディスカッション、レポート」のルーティンを基に知見を深め、さらにインターンシップや卒業研究などの実習・演習を通じて「自律と個性」を体現するユニークで好奇心に溢れた信頼される人材育成にチャレンジして参ります。



食物栄養コース 飯田 晃朝

ビジネスキャリアコース 吉村 司

絵本の朗読発表会

こどもと言葉Ⅰ

屋木 瑞穂

子どもたちの心と言葉の発達に資する絵本の力は広く知られ、保育現場では読み聞かせが盛んに行われています。

絵本は最も身近な児童文化財の一つと言えるでしょう。子どもたちが絵本の世界を楽しむための効果的な読み聞かせ方法を身につけることが大切です。

幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための必修科目「こどもと言葉Ⅰ」においては、絵本の読み聞かせの意義や方法について学んでいます。そこで本授業では、昔話絵本の朗読発表会を行いました。昔話とは、語り継がれてきた伝承物語です。声に出して響かせることで、昔話独特の語り口調やリズムが心地よく伝わり、耳で味わうことができます。

今回は、幼児教育・小学校教育の教材として馴染みのある「かさじぞう」を教材として、グループごとに

子どもの心に響く場面を選び、対話を通して読み方を工夫し、発表し合う活動を取り入れました。

個々のグループは、分担の仕方を工夫し、感情を込めてセリフを読んだり、擬音語・擬態語や挿入歌などを数人で声を揃えてリズムカルに読んだりして、様々な工夫を凝らしていました。

発表を聴いた学生も、「今回は、チームでの読み聞かせということ、複数人で行うことの良さができていて、良かった」「全体的にスピードも声の大きさも良かったと思うし、会話のときの感情を込めたり大きさを変えていたのがとても良かったと思う」などと、朗読の工夫に感心していました。

今後も、保育者を目指す学生たちが言葉の楽しさや美しさに気づき、「言葉に対する感覚」を豊かにするような授業を工夫していきたいと考えています。



ゼミナールでも絵本の読み聞かせをしています

学生・キャリア支援センター

第56回佐保祭

～見たことのない景色へ 青春を取り戻せ～ 学生・キャリア支援副センター長 高屋 有加

10月28日(土) 第56回佐保祭を開催しました。4年ぶりの開催となった佐保祭では、「運動会」「e-スポーツ」「屋台フェスタ」「縁日」「おたまじゃくしコンサート」「絵本の広場」などみんなで楽しめるイベントを大学祭実行委員会が企画しました。

青空の下開催された運動会では在学生はもちろん、教職員、卒業生、来場者も参加し、大盛り上がりでした。

ちびっこ徒競走では遊びに来てくれた子どもたちが頑張っている姿に「頑張れ!頑張れ!」の声援が飛び交っていました。クレープやたこ焼き、フリフリ

ポテト等約10店舗が並んだ屋台フェスタでは行列ができるほどの大盛況でした。

コロナの影響でイベント自粛の期間が長く続きましたが、このように大きなイベント「佐保祭」を開催できた事に学生たちは大喜びでした。

また、卒業生や近隣の皆さまなど沢山の方にお越しいただき楽しんでいただけた事を大変嬉しく思います。

これからも学生とともに、皆で楽しめるイベントを企画し、学生生活の思い出作りのお手伝いをしていきたいと思います。



障害学生修学支援センター

～奈良佐保短期大学の学生相談室って?～

障害学生修学支援副センター長 高屋 有加

学内には学生相談室(カウンセリング室)を設置し、臨床心理士によるカウンセリングを受ける事ができます。

今年の教職員対象研修会では「奈良佐保短期大学の学生相談室って?」をテーマにどのようなカウンセリングを実施しているのかを学びました。

相談業務はもちろん、箱庭を使った心理療法、心理検査等さまざまな方法で学生をサポートされています。

最近「コミュニケーションが苦手」との相談が多い傾向にあることから、誰でも簡単にできる、無意識にコミュニケーションがとれる「スクイグル法」について体験を交えて学びました。

必要な物は白い紙とマジック。一人が相手の事を考えながら白い紙に一筆書きで線を書く。相手はその線の中から形を探し、絵を完成させる。それだけの簡単な方法です。

言葉で表現することが苦手な学生でも相手が絵を見つけてくれた事により自然と心が和み、話すきっかけが生まれます。実際体験した私たちも無意識の

うちに相手との会話に夢中になり絵を完成させていました。

カウンセリング室は敷居が高いと思う学生もいますが、ただ話をするだけでなく、体験等も交えて気軽に相談できる場所であることを多くの学生に知ってもらいたいと思いました。

相談室の中は



教育支援センターの役割

教育支援センター長 森永 夕美

本学では基礎教養科目、各学科・コース、日本語教育別科にカリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを設定しています。

カリキュラム・マップとは、授業科目と教育目標の関係を示した表のことです。ディプロマポリシー(学位授与の方針)に基づき、各科目が何を学びの主にしているのかを理解することで、体系的な履修を促す意図を持っています。

また、カリキュラムの順次性や関係性を示すため、授業科目を分類ごとに水準で並べ科目ごとの相互関係や学修の道筋等を表した図をカリキュラム・ツリーといいます。学生と教職員がカリキュラム全体の構造を俯瞰できるようになり、体系的な教育課程の編成・実施や、学生の主体的な履修を促す意図があります。

2024年度から本学の「カリキュラムマップ・ツリー」が変わります。カリキュラム・マップでは、ナンバリングの表示があります。ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序、授業科目間の関係性等を表し、学内外に、教育課程の体系性を明示する仕組みです。

今までのナンバリングは①科目所属②履修学年③整理番号を表示した番号でしたが、2024年度からは①科目所属②分類③授業形態④水準⑤区分とより詳しいことがわかる番号に変わります。

また、カリキュラム・ツリーでは、今まで2年間の流れで表示していましたが、科目の水準(基盤・専門・総合)別の表示に変更しより分かりやすく変更することになりました。

教育支援センターでは今後も学生が履修しやすい環境を整えてまいります。

IR 推進室

学生の学ぶ力は全国平均以上 一奈良佐保短期大学の教育力ー IR 推進室長 中田 奈月

奈良佐保短期大学 IR 推進室は学内及び学外の組織や教育・研究等に関する情報を収集・分析する部署です。

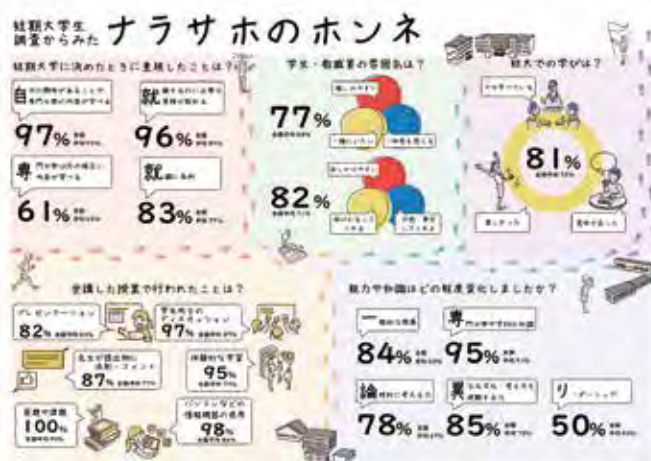
今年度は 2023 年卒業生データから学生の学びを主に分析しました。分析結果から、本学は教育力のある大学であり、学生は力をつけて卒業していることが明らかになっています。今回はその一端を紹介します。

例えば、2022 年度短期大学生調査において、短大に入学してからどの能力や知識が向上したか尋ねた質問では、「一般的教養」は 84% (全国平均は 75% 以下カッコ内は全国平均)、「専門知識」は 95% (91%)、「論理的な考え方」は 78% (67%)、「資料を読み解く力」は 67% (51%) 等、あらゆる項目で全国平均よりも高くなりました。

本学の教育理念や建学の精神にかかわる項目についても、「他者と協力する力」83% (76%)、「リーダーシップ」50% (10%)、「社会貢献意識」66% (50%)、「社会の問題を理解する力」77% (64%) と高い水準です。「データを読み解く力」も、51% (42%) と、10 ポイント以上も高くなっており、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リ

テラシーレベル)」に認定されたとの力を学生の皆さんが身に着けていることがわかります。学生の皆さんが努力している結果が数字に表れたといえるでしょう。予習復習等の勉強に費やす時間も全国平均より長い結果となっています。

IR 推進室での分析結果は、カリキュラム策定に活かされます。エビデンスに基づいた教育・研究・財務・社会貢献活動等の目標設定や戦略の立案によって、本学の教育力の一層の強化、社会貢献を推進してまいります。



学内ITインフラの刷新

情報メディアセンター長 川崎 敬二

学生1人1台ノートパソコンが必携となり、先生との授業課題のやり取りや連絡が頻繁になってきたため、コンピュータネットワークの強化と、並行してコンピュータウイルスへのセキュリティ対策強化を含めた学内 ITインフラの刷新を行いました。

【学内 Wi-Fi環境の強化】

学生がどの教室でも自分のノートパソコンを自由に利用できるように、Wi-Fi(無線) ネットワークの強化を実施しました。

利用頻度の高い教室等には Wi-Fiの中継装置の増設と、利用頻度の少ない場所には、設置工事の不要な公衆回線を利用した Wi-Fi装置の導入を行い、学内 Wi-Fi環境の強化を図りました。

【コンピュータサーバーのクラウド化】

近年のコンピュータウイルスは、ネットワーク上の全てのデータを暗号化してしまうことがあるため、今回サーバー機器入れ替えに伴い、学内敷地内に設置するのではなく、クラウド化(学内のネットワークから隔離された環境にあるコンピュータを利用)することで、サーバー内の重要データのウイルス感染対策を行いました。

【ウイルス対策ツールの刷新】

従来のウイルス対策ツールは、過去に発見されたウイルスへの対策が主流でした。

しかし、近年のウイルスは過去にない新規の感染症状もあり、今回導入した最新ウイルス対策ツールは、データの異変を事前察知する機能や、データが暗号化されても元のデータに戻す機能、感染した PCを自動でネットワークから遮断する機能等、影響を最小限に留めるようになっています。



入試・広報センター

奈良佐保短期大学の広報活動について

副学長・入試・広報センター長 黒川 丈朗

2023年12月28日、本学は2025年度以降学生募集停止のお知らせを公表しました。

2024年4月の入学者が本学最後の学生となります。この学生たちがこれまでと変わりなく学生生活を過ごし、資格取得等の目的を達成し、修業年限で卒業すること、即ち学業を成就することができるように、教育の質を保証することが、本学に課せられた使命であります。

また、在学生一人ひとりの学生生活が、各々の人生にとってかけがえのないものであるため、学生生活の質をしっかりと保証しなければなりません。

大学広報の業務は、冒頭のような重要なお知らせを迅速かつ正確に発信しなければなりません。一方で、個々の学生達が日々学業に励みながら輝く瞬間を、私たちがしっかりと捉え発信することも日常的な大学広報の業務として重要であります。

フォーマルなお知らせは本学 WEB サイトから、学生にとって身近なお知らせや情報発信はインスタグラムなど学生が使いやすいツールを活用し、広く一般

の受信者に分かりやすく発信することがポイントであります。

大学広報の仕事は、すべての学生を送り出す日まで大学の活動について積極的な情報発信を行うことも、また学生生活の質を担保するための重要な使命なのであります。



子育て支援の必要性に大学とともに取り組む

和田 公子

奈良佐保短期大学構内に奈良市の委託を受けた子育て支援拠点が誕生して15年になりました。

大学周辺は春日原生林がすぐ近くにあり自然豊かな地域です。しかし子育て世帯が安心して過ごせる場所があまりなく、子育て支援拠点の開設が求められていました。そこで様々な資格取得のための養成校である奈良佐保短期大学が審査を受けて受託し、子育て支援センター「ゆめの丘 SAHO」としてスタートしました。

現在は子育て支援の現状を鑑みて「センター」ではなく「ひろば」として運営し、利用者支援が大きな役割になっています。ここで改めて大学の中にある意義を感じています。

他の子育て支援拠点にないのが専門性をもった教員の皆様、資格取得のために様々な学びに取り組む学生との関わりです。

子育ての孤立化や慣れない地域でのアウェー育児、頼る人のいないワンオペ育児など子育ての現状は、初めての育児をする新米ママにとって、先の見えない毎日に思えて心身ともに疲れる原因にもなっているようです。SNSなどであふれる情報の中で何が正しいのか分からなくなることもあります。

そんな時小さな悩みや疑問、不安などを吐き出す場所として子育て広場があります。そしてそこには様々な人が関わり、様々な方法で子育て親子に関わっています。楽しいだけではない子育てですが、子どもの小さな成長と一緒に喜んでくれる人がいる安心感を子育てママたちに味わってほしいと、日々ドアを大きく開けて「ようこそ」と迎えています。

大学の構内にあるからこそ日ごろ出会えない学生から声をかけてもらったり、一緒に関わってもらったりすることは素敵な出会いとなっています。

子育ての悩みに耳を傾けて聞いていただける教員の皆様にも感謝です。16年目に向かってこれからもどうぞよろしくお願いいたします。



学生による虐待防止運動



教員による子育て講座

図書館

変わらないサービスの提供を続けます

図書館課長 能瀬 澄美

■「文献の探し方・図書館の使い方」講習会

図書館で扱う資料形態は、図書・雑誌・視聴覚資料・インターネット資料・電子書籍と幅広く、様々な情報源の中から正しい情報を得るために、情報の調べ方・情報源の取扱い方を学生の皆さんにお伝えしています。

今年度も、入学間もない時期に実施してほしいと、教員の方々からの依頼もあり、新入生を対象とした「文献の探し方・図書館の使い方」講習会を各学科・コースごとに実施しました。

■「Maruzen eBook Library」電子書籍を提供しています。

図書館では、2020年度から、丸善雄松堂(株)の「Maruzen eBook Library」と契約し、現在、49点の電子書籍を提供しています。

学内であればいつでもパソコンや自分のChromebook から手続きなしで利用することができます。

本学図書館ウェブサイト「蔵書検索」や「saho-navi 学生支援情報システム」内にリンク

がありますので、アクセスしてみてください。学外から利用する場合は、事前に登録手続きが必要です。詳しくは図書館にお尋ねください。

■「大学祭 2023 えほんのひろば」

10月28日(土)、4年ぶりに来場者の制限なしで大学祭が開催されました。

図書館では、10:00～15:00に、卒業生による絵本の読み聞かせイベントを行いました。

約10組の家族連れや卒業生、一般の方など延べ約80名の参加がありました。



2023 年度公開講座 「夢の丘 SAHO セミナー」(秋・冬) を開催

地域国際センター長 杉原 麻起

2023年11月26日(日)「きいてみよう!ならしてみよう!わくわくコンサート」。「ヴァイオリン奏者 時本さなえ先生・打楽器奏者西尾知子先生・ピアノ演奏 村上優先生」素敵な仲間たちとのコンサートを開催しました。

当日は 幅広い年代の子どもたちとお父さんお母さんが参加されました。

まず最初に演奏を聴き、次に楽器クイズで盛り上がり、それからヴァイオリン、ピアノ、珍しい打楽器に

触れて音を鳴らしてみる体験をしました。

みなさんが弾いたことがないヴァイオリンから音が出たときの嬉しそうな顔。ピアノを初めて弾いた子どもたちの笑顔。会場には色々な笑顔が溢れていました。

最後には、みんないろいろな楽器を持って一緒に演奏して音楽を楽しみました。

会場には、温かい空気が漂いすてきなコンサート(講座)になりました。



防災・環境委員会

地域防災避難訓練 2023

防災・環境委員長 飯田 晃朝

2023年9月30日(土)に開催した、奈良佐保短期大学地域防災避難訓練も、本年度で6回目となりました。今回は徐々にコロナ禍が解消しつつあることから、災害時に本校に避難される地域住民の方々や本学の学生に、防災に関する事柄を実際に体験してもらうことに重点をおいた内容で実施しました。

本年度も過去の訓練から関係を築いてきた様々な各種団体にご協力を頂きました。奈良市消防局による起震車での地震の体験や消化器を使った消火訓練、自衛隊による応急手当の講習や災害のパネル展示を実施していただき、参加者には実際に様々な体験をしていただきました。

また学生達の取り組みは、学んでいる専門分野の特色を活かした内容を実施しました。生活福祉コースは、エコノミー症候群解消体操とリラックスツボ押し体験、食物栄養コースは、備蓄防災食のアレンジレシピの展示やトヨタユニテッド株式会社と奈良県栄養士会のコラボによる電気自動で発電した電気を利用したパルクッキングの調理&試食体験や炊き出し訓練、ビジネスキャリアコースは、本年度の訓練をPRするチラシを制作しました。また地域子ども学科は、「避難所運営ゲームHUG(ハグ)」を実施し、地域の参加者と一緒に協力して、震災時における避難所の運営方法について模擬体験をしました。

短い時間でしたが、コロナ禍でこれまでたくさん

の方々と直接交流する機会が少なかった学生たちにとっては良い経験となり、奈良佐保短期大学が地域の防災の一端を担っている感じてもらえる事ができました。

このような地域住民を交えた産官学による共同の防災への取り組みは、他の地域でも注目されています。しかし、参加して下さる地域住民の方々が徐々に減少しているのは確かで、継続して人々の防災意識を高めることの難しさを改めて実感しています。

奈良佐保短期大学では今後も引き続き、地域住民の方々と協力して、地域防災避難訓練を実施する予定です。地域に住む方々、学んでいる学生、協力してくださる関係団体、そして奈良佐保短期大学にとってふさわしい取り組みになるように、これからも学校全体で取り組んでいきたいと思っています。



安くて美味しい食事を提供しています！

レストラン事業部 倉田 清

「レストラン鹿野園」は、平成23年4月開設以来12年余がたち、学生・教職員の方々のみならず来学者や地域の方々も利用される憩いの場となっています。西側は、全面ガラスで生駒山を遠望し、奈良の街並みが眼前に広がる雄大な眺望が自慢です。

開設以来、安価で栄養にも配慮したメニューがモットーで、奈良佐保短期大学の農園（SAHOファーム）で収穫したとれたて野菜を提供し、学生たちの栄養面と満足度アップに努めています。不定期開催ですが、「イタリアンフェア」や「ケーキバイキング」など趣向を凝らした美味しいイベントも開催され、利用者の人気を呼んでいます。

奈良佐保短期大学が「栄養士養成」を行っていることから、教員がそのノウハウを活かした「無料試食会」



今日は、スペシャル「イタリアンフェア」



今日の昼食は「からあげ定食」です

をレストランで実施しています。

これは、食に関する関心を高め、学内農園で栽培収穫した野菜を使用し、素材の良さをアピールするもので、「新玉たまサラダ」や「新じゃがパンケーキ」「新芋きんつば」など毎回お楽しみ企画となっています。また、教員指導による「10食品群チェックシート」を配布し、今日はどれだけの栄養素を摂取したかを自己診断できるようにしています。

学生と教員によるピアノコンサートや教職員合同軽音楽ミニコンサートなどもレストラン鹿野園で開催されています。（今年度は、池内学長によるピアノ演奏も披露されました。）毎回ヤンヤンヤの大喝采！レベルの高い演奏に、大勢の音楽ファンも大喜びです。

これからも、もっともっと安価で美味しく栄養価も高い食事の提供に努めてまいります。



毎日、学生たちでにぎわっています！

学生ホール売店リフォーム大作戦

地域こども学科長 前迫 ゆり

2023年12月に公表された本学募集停止のニュースは学生にとっても、また教職員にとっても大きな衝撃でした。この自然豊かなキャンパスで、友人との楽しい時間がとまることを誰も想像していませんでした。そんななか、学生が楽しそうにキャンパスライフを過ごしていることを、とても幸せに感じます。

さて、学生ホールの売店リフォーム計画を地域こども学科から教授会に提案したところ、賛同を得ました。そこで造形担当の生駒英法先生にこの計画の指揮をとっていただき、売店改造計画の呼びかけに一回生と二回生の有志6名が集まってくれました。売店リフォームのコンセプトを話し合う中で、落ち着いた空間でありながら、創造性が膨らむ楽しい空間！という構想が決まり、2月の春休みにリフォームがスタートしました。

春休みは1回生の施設実習などもありましたが、学生の協力と連携により、3月に無事完成しました。学生からは「めちゃいい感じになった！」という声があがり、長年、売店の顔として学生にやさしく接してくださった古賀さんからも「すごいです！」という喜びの声をいただきました。

このリフォーム大作戦は、大学に遊びに来てくれた20年前の卒業生との「売店は、この大学でピカイチの楽しい場所だった・・・」という会話がきっかけで企画・提案し、学科教員と現役学生の抜群のセンスと協力のもとに完成しました。新学期から、ここでまた楽しい時間が紡がれることでしょう。売店リフォーム大作戦に協力してくれた学生に、そしてこの大学を大切に思い続けてくれた卒業生に感謝します。



自分なりの介護観

2年間の学びと経験は私にとって大切なものとなりました。その中でも大きな学びとなったのは「関わること」や「関わり方の重要性」です。

学内では、福祉・介護に関しての知識はもちろん、コミュニケーションについての講義やレクリエーションを考え実施する授業など、関わりについて学ぶことが多くありました。「実習で学びを活かしきれず挫折し、現場の介護職員の方から学び、学校に戻って振り返りさらに学ぶ」、この繰り返しにより一層学びを深めたと感じます。

生活福祉コースの先生に限らず、たくさんの先生や職員の方々が相談にのってくださり、みなさんの支えがありここまでこれたと思います。また、異なるバックグラウンドを持つクラスメイトとの交流を通

食物栄養コースで学んだこと

私は、この2年間食物栄養コースで多くのことを学び、とても充実した学生生活を送ることができました。

授業では、栄養や調理について幅広く学び、食に関する知識を身につけることができました。調理実習では、野菜の切り方を始め、魚のさばき方など家ではなかなかできないことも経験し、調理の基礎応用を学び、大学に入学する前よりも調理技術が身についたことを実感しました。また、応用栄養学実習や食事療法実習では、講義で学んだ内容を実際に調理をして再確認できたので、とても勉強になりました。食育実践演習は、農園で野菜を育て収穫をし、野菜の成長過程を見ることができる良い経験となりました。給食管理実習では、グループで献立作成から計画・発注・調理までを行い、給食業務の大変さを感じたとともに、グループで一つのことをやり遂げる大切さを学びました。

学外実習では、就職する前に実際に現場での調理作業に携わることができ、毎日たくさんの食事を

ビジネスキャリアコースで学んだこと

主に「経営」について学びました。「経営」といっても幅広く、それぞれの現場に必要な人材になるために、様々な種類の教科を学びました。

その中で1番印象に残っているのは2つあり、1つ目は「インターンシップ」です。初めて学外に出て1週間、その会社で様々なことを学ばせていただきました。事務のお仕事や接客業のこと、それ以外にも自身の視点が広がるようなことばかりだったので、勉強になりました。

2つ目は「卒業研究」です。1回生の時に、2回生の卒業研究を聞いて、様々なテーマについて研究をされていました。それを踏まえて、実際自分たちが2回生になってから1年間で、一人ひとりが様々なテーマについての研究をしていき、公聴会や成果報告会で無事に発表することが出来ました。その発表ま

生活福祉コース2回生 梅本 夏生

じて、多様性を受け入れ協力する大切さも学びました。

他者の視点を理解することが、福祉・介護の分野でより有益な結果を生むと感じました。

この大学で得た知識やスキルを社会で実践していくことに期待が込み上げワクワクしています。これからも学び続け、福祉・介護の分野で貢献していけるよう努力していきます。



食物栄養コース2回生 甲斐 遥香

つくる大変さを実感しました。調理だけでなく、食事の対象となる利用者さんや子どもたちと接することも出来、とても貴重な経験をさせていただきました。

奈良佐保短期大学でたくさんのことを経験した中で、身についたと感じたことは「積極性」です。元々人前で意見を言ったり、積極的に動いたりすることが苦手でしたが、優しい先生方やクラスメイトに恵まれ、何事にも自分に自信を持って積極的に取り組めるようになりました。

この2年間で学んだことは一生の宝物です。この学びを糧に、卒業後も成長し続けていきたいです。



ビジネスキャリアコース2回生 富田 美咲

での道のりはとても大変なものだったけれど、勉強になることばかりだったのが印象に残っています。

【奈良佐保短期大学に入学して感じたこと】

先生方が親身になって関わってくれることです。講義だけに関わらず、空きコマや休み時間の時にさまざまな話をする中で、自身の知らなかったことを教えてくれたり、親身に相談に乗ってもらっていたのが印象に残っています。

また、就職に関してもさまざまな職種や業種について教えてもらい、役立つことばかりだったのも、入学してからとても感じました。



1年間の学び

私が奈良佐保短期大学に入学して感じたことは、職員の方々との距離が近いことです。入学してすぐは、「先生」と「学生」という関係が強くありましたが、毎日の授業や休み時間など一緒に過ごしていく中で、いつの間にか友達のように関わることができ、授業の内容でわからないことはもちろんのこと恋愛相談、バイト先の悩み、家族についてなど、たくさんのかたを語り合うことができました。

授業の空きコマがあれば、友人たちと研究室に行き、先生たちが仕事をしているにも関わらず喋り尽くすことも多々ありました。授業の準備などで忙しい中、いろいろな話に付き合ってくれる優しい先生方がたくさんいて、毎日の学校が楽しくなりました。

地域こども学科で学んだことは、座学や実習などで子どもたちの成長や発達、関わり方、保育者として

の責任や自覚、保護者についてなど、たくさんのかたを学ぶことができました。

実習で発達に遅れのある子との関わりに戸惑うことが多くあったので、これからたくさんのかたの経験を積みたいと考え、私は運動療育の道に進むことを決めました。

現場では、この学校で学んだ知識や技術を中心に、子どもたちにとっても、仲間にとっても貢献できるよう励んでいきたいと思っています。



2回生 井村 友香

2年間で学んだこと

私は高校生の頃、進路をどうするか迷っていた時、子どもの面倒を見ることが好きだったので保育士になろうと考えました。そこで、奈良佐保短期大学で保育士になれる学科があると知り入学しました。

授業や課題に取り組んでいると、保育の専門的な知識や用語ばかりでとても不安で保育士資格、幼稚園免許を取得して卒業できるか心配でした。しかし、保育士になりたい一心で努力し頑張ることができました。

実習では、こども園や幼稚園、障害児入所施設などさまざまな場所へ行きました。何度も実習を経験していくうちに子どもたちとの関わり方がわかるようになっていきました。

トラブルの解決方法や、楽しく活動できるように会話しながら一緒に参加すること、また年齢に応じて一人一人の特性やどのような遊びができるかなどを学ぶことができました。

学内での課題や悩みがある時は、先生に相談すると適切なアドバイスを資格いただいたり、話を聞いてくれたりしました。先生との距離がとても近く、どんなことでも話ができるとてもいい大学だと感じました。そして、私は奈良県の公務員（障害児入所施設）への就職が決まりました。

今まで奈良佐保短期大学で学んだ保育の専門的な知識を活かし、子どもたちから人気者になれるように、一緒に楽しく過ごせるような保育者として頑張っていきたいです。



2回生 黒島 祐弥

仲間の大切さ

私は一度諦めた小学校教諭の夢を叶えるためにこの学校を志望しました。

はじめは慣れない一人暮らしで不安でいっぱいでしたが、先生方が親身になって話を聞いてくれました。

学校では先生方との距離が近く、授業内容の質問や教育実習に向けて不安に思っていることを熱心に耳を傾けて答えてくれます。

また、保幼小連携に強い教員になることができ、近年問題視されている「小1プロブレム」を専門的に解決に導くことができる教員を目指すことができます。

学校生活で一番の楽しみはレストランで食べることができるランチです。毎日できたての日替わりランチを食べて1日のエネルギーをチャージします。ときには友達と励ましあい、協力して課題に取り組むこともあります。そうやって年齢関係なく沢山のひとに助けられて資格取得に向けて頑張っています。

卒業後は和歌山県で笑顔で一人一人の児童の気持ちに寄り添うことができる教員になることができるように日々精進しています！



1回生 丁子 奈月

留学生の声

留学生として学んだ日々を振り返って 生活未来科 生活福祉コース 2回生 TRAN THI MINH THU
(チャン ティ ミン トゥー) ベトナム

私は2021年に生活福祉コースに入学しました。

卒業まであと半年という2022年の夏に体調を崩しベトナムへ帰って療養することになり、半年間休学しました。その時は身体のしんどさから「もう日本での勉強をやめたほうがいいかな」と思いましたが「日本で介護の勉強がしたい」「日本をもっと知るために旅行もしてみたい」という最初の志を思い出し、療養に専念し2023年4月に復学しました。

復学したときは以前のクラスメイトは卒業しており、新しい学年に加わることになり不安でしたが、クラスメイトが優しく話しかけてくれ、一緒に地域防災避難訓練や大学祭などいろいろなイベントに参加したり、授業を通して話をしたりして少しずつ馴染んでいくことができました。

最後の介護実習は20日間という長い期間でしたがなんとか実習を乗り越えることができました。実習で担当した利用者は日によって体調も気分も変わる方で、その時々の利用者に合う関わりをすることの大切さについて学びました。

後期授業が始まると介護福祉士の国家試験に向けて、毎日朝から夕方まで1日中勉強しました。

国家試験に合格したときは本当に嬉しかったです。ベトナムにいる父もとても喜んでくれました。

私は介護福祉士として、まずは日本で介護の仕事を頑張りたいと思っています。スポーツが好きなため、野球の試合も見に行きたいと思っています。



学友会

生活未来科 生活福祉コース 2回生 田中 結海

私は活気と魅力ある学校作りを築きあげたいと思い、学友会長に立候補しました。「何事も楽しんで全力でやりとげる」を目標に、様々なイベントを企画しました。イベント企画だけでなく、クリーンキャンペーンなども行いました。地域の方から「ありがとう」と声をかけていただいた時はとても嬉しかったです。

秋には大学祭を開催しました。数年ぶりの本格的な大学祭開催に向けて、みんなで協力し、運動会や屋台フェスタ、e-スポーツなど様々なイベントを企画しました。中でも一番盛り上がったのが運動会でした。

大学祭に遊びに来た子どもたちや卒業生、教職員が一緒になって本気で競い合い、全力で楽しむことができました。他の学生からも「とても良い思い出になった」と言ってもらえた時は一生懸命企画してよかったと実感しました。

企画する最中には仲間との意見の食い違いがあり、辛い事もありましたが、お互いの意見を尊重することでよりよいイベントが開催できることを学びました。学友会長を務めた事を誇りに思い、社会に出て

も全力でやりとげる事を忘れずに日々を過ごしたいと思います。



FD推進委員会の活動

FD委員長 畑野 裕子

FD (Faculty Development) とは、教員本来の役割である教育や研究の能力を向上させるために、全学的かつ組織的に啓発・研修に取り組むことを意味します。これを具体化するためにFD推進委員会では様々な活動を行っていますが、2023年度は「公開授業」、「FD研修会」、「学修成果に関する調査」などの事業を展開いたしました。

まず「公開授業」は、前期は7/3(月)～7/7(金)、後期は11/27(月)～12/1(金)に実施し、検討会を、8/3(木)と2/8(木)に開催しました。検討会では、公開授業プラン・評価シートをもとに、「意欲的な受講態度の育成」を視点として話し合いました。そして、今後の授業の在り方として、公開授業評価における長所を相互に取り入れていくことになりました。

「FD研修会」に関しては、9月1日(金)に、黒川丈朗本学副学長を講師として、「科研費の申請に当たって」というテーマで実施しました。科学研究費の獲得を目指した申請書の書き方の例示等は、研修会参加者にとって非常に有益となりました。

「学修成果に関する調査」は、前期(9/15)後

期(12/4～12/31)ともに、「saho navi」(学生支援情報システム)を使用しました。前期では授業全体として、後期では各授業科目を対象として調査しました。(各評価項目の回答については、学科ごとに選択肢を実数集計し百分率で示しました。)これらの結果は、教員の今後の授業計画など教育活動へのフィードバックの参考となるように、ホームページにも公開していますので、ご参照いただければ幸いです。

今後もこのような活動を継続し、本学の教育内容や方法の改善に努めてまいります。



SD委員会

奈良佐保短期大学のSD活動

SD委員長 藤本 友宏

SD (Staff Development/ スタッフ・ディベロップメント) は、大学職員の能力を高めていく取組です。少子化だけでなく社会情勢が目まぐるしく変化する中で、大学等の運営の在り方の一層の高度化や運営を担う大学職員の資質能力の向上や人材育成がより一層求められるようになりました。今は絶えず新しい知識やスキルを学ぶ必要がある社会になっていると感じます。

そしてSD活動の取組として最も期待されているのは職員研修の充実であることがポイントといえます。

2023年度のSD研修会は、2023年9月11日(月)に「奈良ホテルの歴史とおもてなし」と題して辻利幸氏(現 名勝大乘院庭園文化館館長)に講演をしていただきました。

辻氏は長年、奈良ホテルで勤務され、本学のことを過去から知り尽くされています。サービス業の最高峰ともいえる「奈良ホテル」において最高のおもてなしを提供されてこられた辻氏の経験をお聞かせいただき、おもてなしの基本的な考え方、心構え等についてご講演いただきました。お客様に接する

本質は学校における学生との関係と同じで本学の「ほっとかない教育」とあい通ずるものがあると力強く語っておられました。

また、ホテルマンのおもてなし精神は学生への接し方において通じる点が多く、実践できることが沢山あると思いました。

これからも奈良佐保短期大学はSD活動を通じて学生により良い教育や学生支援ができる環境を提供していきます。



令和5年6月7日(水) 奈良新聞掲載



ゴールへ気持ち一つに

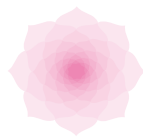
児童養護施設フットサル対抗戦
学生たちは支援を体験

子どもたちの成功体験を積み、保育士の資質を高める第1回児童養護施設フットサル対抗戦(奈良佐保短大)が7月7日、奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学グラウンドで行われた。大塚、京都、奈良の4施設の子どもたち、教員ら約50人と同短大の有志者が参加して行われた。

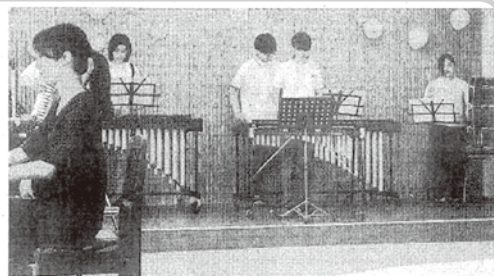
大会は午前中に練習のリーグ戦を行い、午後からは順位決定戦を実施。試合を行いながら、子どもたちが、気持ちを一つにして、物事をやり遂げる大切を学び、保育士を目指す学生たちは実践を通じて子どもたちへの支援を体験するのが狙い。企画は学生が立案し運営した。

開会式のと、試合の準備と後、子どもたちの入場し、シュート練習の相手をする学生たちが勢揃い。昼食を共にし、次第に子どもたちと学生たちは打ち解けた。

同大の児童養護系(18)は、楽しい(子どもたち)思ったよりレベルが高い(に感じた)日頃から先生との関係を築いていてと感じ、子どもたちは自分らしさを表現し、それがチームの団結力につながっていると感じ、手応えをつかんでいた。



令和5年6月30日(金) 奈良新聞掲載



学びの成果を披露

奈良佐保短大
「二重奏会」
奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学(池内まなみ学長)は、同大の学生が、約10人の学生、教員らが、ホールで演奏した。二重奏会「二重奏会」は、同大の学生、教員らが、約10人の学生、教員らが、ホールで演奏した。

「二重奏会」は、同大の学生、教員らが、約10人の学生、教員らが、ホールで演奏した。

令和5年7月8日(土) 奈良新聞掲載



奈良佐保短大

疑似体験でリフト試乗

福祉車両を体験実習

奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学(池内まなみ学長)は、7月8日、福祉車両の体験実習を実施した。同大の学生ら約20人が参加し、福祉車両の体験実習を行った。

同大の学生ら約20人が参加し、福祉車両の体験実習を行った。

福祉の仕事に関心を

奈良佐保短大
大和郡山 親子学習イベント
奈良佐保短期大学(池内まなみ学長)は、23日、大和郡山下三橋町のイオンモール大和郡山で、親子学習イベント「福祉の仕事に関心を」を開催した。

令和5年9月25日(月) 奈良新聞掲載



親子学習イベント「福祉の仕事に関心を」を開催した。同大の学生ら約20人が参加し、福祉車両の体験実習を行った。

同大の学生ら約20人が参加し、福祉車両の体験実習を行った。

令和5年10月1日(日) 奈良新聞掲載

避難所想定、止血など学習

奈良佐保短大で地域防災訓練



奈良佐保短期大学(池内まなみ学長)は、10月1日、奈良市鹿野町の同大で、地域住民ら約100人が参加した。同大は市指定の第2次避難所。訓練は、地震発生時の避難所運営を想定し、2018年度から実施している。

同大は市指定の第2次避難所。訓練は、地震発生時の避難所運営を想定し、2018年度から実施している。



令和5年10月29日(日) 奈良新聞掲載

借り物競走に笑顔

奈良佐保短大 4年ぶり 近隣住民も参加

奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学(池内ますみ学長)が、28日、第56回「佐保借り物競走」を開催し、近隣の住民も参加した。競走は、学生と住民の混合チームで行われ、学生は借り物を持って走り、住民は学生を応援する。競走は、学生と住民の混合チームで行われ、学生は借り物を持って走り、住民は学生を応援する。競走は、学生と住民の混合チームで行われ、学生は借り物を持って走り、住民は学生を応援する。



借り物競走を走る学生ら。28日、奈良市鹿野町、奈良佐保短期大学。

令和5年11月19日(日) 奈良新聞掲載

ダンスや劇に笑顔

奈良佐保短大 親子ら催し楽しむ

奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学(池内ますみ学長)が、18日、第56回「佐保親子フェスタ」を開催し、親子で楽しむ催しを行った。ダンスや劇などのパフォーマンスが行われ、親子で楽しむ催しを行った。ダンスや劇などのパフォーマンスが行われ、親子で楽しむ催しを行った。



子どもたちがダンスなどを進んだ「子どもフェスタ」=18日、奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学。

令和5年11月22日(木) 奈良新聞掲載

佐保短大でオレンジリボン運動 親子同士の交流の場へ



児童虐待防止を呼びかけるオレンジリボンをつくる親子連れら。2日、奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学。

奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学(池内ますみ学長)が、2日、学生と近隣の親子で「オレンジリボン運動」を実施した。児童虐待防止を呼びかけるオレンジリボンをつくる親子連れら。2日、奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学。

奈良

学生ら企画、運営担当

が企画、運営を担当。未就園の子を持つ保護者に児童虐待について考え、親子同士の交流の場をもつて、子どもと関わり、児童虐待防止を呼びかけるオレンジリボン運動を実施した。児童虐待防止を呼びかけるオレンジリボンをつくる親子連れら。2日、奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学。

令和5年11月29日(水) 奈良新聞掲載

楽しく学ぶ福祉・介護

奈良佐保短大「エアリハ」伝授も

奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学(池内ますみ学長)が、26日、「みんなの福祉・介護」のお仕事を学ぼうと題してイベントを実施した。地域住民ら約140人が参加した。第1部は、県出身の「お笑い理療療法士日向亭夢(むぎ)」が、エアリハを披露し、独自に考案した介護予防の体操を紹介。参加者は楽しみながらエアリハを学んだ。第2部のステージトークは、俳優の野村真美さんが、児童虐待防止を呼びかけるオレンジリボンをつくる親子連れら。2日、奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学。



参加者にエアリハを伝授する日向亭夢さん=26日、奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学。

令和5年12月3日(日) 奈良新聞掲載

一緒に遊んで笑顔

奈良佐保短大 児童らとクリスマス会

奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学(池内ますみ学長)が、2日、児童らとクリスマス会を開催した。児童らは、学生と近隣の親子で「オレンジリボン運動」を実施した。児童虐待防止を呼びかけるオレンジリボンをつくる親子連れら。2日、奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学。



キャラクターを演じた手作りキーホルダーをプレゼントするサンタクロースに扮した学生ら=2日、奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学。

どうする奈良

超高齢社会を生き抜く

奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学(池内ますみ学長)が、2日、超高齢社会を生き抜くためのセミナーを開催した。超高齢社会を生き抜くためのセミナーを開催した。超高齢社会を生き抜くためのセミナーを開催した。

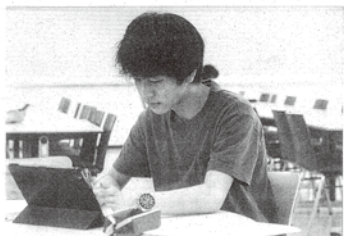


超高齢社会を生き抜くためのセミナー=2日、奈良市鹿野町の奈良佐保短期大学。

令和6年1月29日(月) 奈良新聞掲載

令和5年12月18日(月) 奈良新聞掲載

相手の気持ちを理解できる
介護福祉士になりたい



一介の仕事をめざしたきつかけ

私は中学3年生の時に、自転車で転倒し手を骨折しました。その際に、骨折や食事や生活などが、予想以上に困難なことになりましたが、周りの人達に支えられても、そのつらさを乗り越え続けることができました。その経験から私も他のコースとの専門科目により幅広い知識を学ぶことができることや、少人数制であり手厚い授業を受けることができることや、授業料が無料・レストランや図書館などが充実しているため、奈良県立保健短期大学を選びました。

◆ 今週の目標

私の現在の目標は、介護福祉士国家試験に合格することです。高齢者施設と障害者施設に実習に行き足ります。どのような分野の介護の仕事にしたいかまだ定かではありません。これからさらに実習を重ね、実習で感じたこと、考えたことについて先生に相談したいと思います。自分の将来を明確にする一歩の介護福祉士になろうと思っています。

NARA SAHO 奈良佐保 2023年度
短期大学 OPEN CAMPUS



令和6年3月6日(火) 奈良新聞掲載



生保興協会の
給付型奨学生

卒業の4人に記念品贈呈

[illegible]

令和6年3月13日(水) 奈良新聞掲載

被災者支援へ出發

「學生に經驗伝えたい」
奈良市鹿野町町の奈良佐々木、金沢市へ向かう。活米来料の春水多田、能登半島地震出発式が行われた。

教科書の文字だけではなく、現地での経験を学生に伝えたいという。



令和6年3月20日(水) 奈良新聞掲載

[illegible]

和6年2月12日(月) 奈良新聞掲載

「残念」地元へ衝撃

[illegible]

「大空」刊「空」の機会が、亦也可利用の東京

[illegible]

令和5年2月11日(日) 奈良新聞掲載

高まる4年制志向

[illegible]

2023年度 奈良佐保の取り組み

4月	4日	入学式	9月	2日	介護職員初任者研修
	5日	お仕事相談会 オリエンテーション		3日	介護職員初任者研修
	6日	新入生歓迎会(学友会) オリエンテーション		6日	奈良文化高等学校 体験授業
	7日	授業開始		9日	自主的活動評価入試
	11日	公務員対策講座		14日	9月卒業証書授与式 学生生活研修会
	15日	介護職員初任者研修		16日	第9回オープンキャンパス
	18日	公務員対策講座		23日	イオンモール大和郡山「親子学習イベント 福祉のお仕事研究会」(生活未来科)
	22日	介護職員初任者研修		24日	イオンモール大和郡山「親子学習イベント 福祉のお仕事研究会」(生活未来科)
	25日	公務員対策講座		30日	地域防災避難訓練(全学)
	29日	第1回オープンキャンパス 介護職員初任者研修	10月	8日	鹿野園町秋まつり参加 古市町秋まつり参加
5月	7日	介護職員初任者研修		11日	サホピコンサート③
	13日	第2回オープンキャンパス		18日	附属生駒幼稚園お芋掘り(地域こども学科)
	14日	介護職員初任者研修		21日	自主的活動評価入試・総合型選抜(体験・面談)・社会人入試・外国人留学生入試
	16日	お仕事相談会 学友会総会		25日	剪定技能講習会(主催:奈良県シルバー人材センター)
	17日	公務員対策講座		26日	剪定技能講習会(主催:奈良県シルバー人材センター)
	21日	介護職員初任者研修		27日	剪定技能講習会(主催:奈良県シルバー人材センター)
	23日	入試説明会		28日	奈良佐保短期大学 大学祭 サホピコンサート④(おたまじゃくしコンサート)
	24日	公務員対策講座			卒業生交流会
	27日	介護職員初任者研修	11月	5日	第10回オープンキャンパス あそびのひろばプチ「お芋掘り」 帯解駅前にぎわいまつり参加
	31日	公務員対策講座		17日	大人のオープンキャンパス
6月	4日	第3回オープンキャンパス 介護職員初任者研修		18日	こどもフェスタ(地域こども学科)
	9日	奈良文化高等学校体験授業		19日	奈良県中央卸売市場開催 冬の市場まつり出店(食物栄養コース)
	14日	サホピコンサート①(レストランピアノ披露コンサート)		22日	季節弁当 販売(食物栄養コース)
	17日	第4回オープンキャンパス		23日	サホピコンサート⑤
	20日	花いっぱい運動(広報ボランティア)		25日	学校推薦型選抜(指定校・公募)・総合型選抜(面談)・社会人入試・外国人留学生入試
	21日	公務員対策講座		26日	奈良佐保短期大学 スペシャルイベント「みんなで「福祉・介護」のお仕事を学ぼう!」 夢の丘SAHOセミナー「きいてみようならしてみようわくわくコンサート親子向けコンサート」
	25日	介護職員初任者研修	12月	6日	保育・教職実践報告会①(地域こども学科)
	28日	公務員対策講座		9日	第11回オープンキャンパス あそびのひろばプチ「人形劇団がくるよ」 奈良マラソン(ミニ奈良マラソン)参加
7月	2日	介護職員初任者研修		10日	奈良マラソン(10km)参加
	9日	第5回オープンキャンパス 介護職員初任者研修		13日	保育・教職実践報告会②(地域こども学科) 夢の丘SAHOセミナー「さばたん元気講座!認知機能を理解し活性化させよう!」
	15日	第6回オープンキャンパス あそびのひろばプチ「造形あそび」 介護職員初任者研修		15日	大人のオープンキャンパス
	20日	親子クッキング(食物栄養コース) サホピコンサート②		17日	生活未来科 入学前体験授業
	29日	夢の丘SAHOセミナー「世界遺産春日山原始林でフィールドワーク」		18日	クリスマス会(学友会)
8月	5日	第7回オープンキャンパス 大和鉄道まつり出展(全学)		20日	保育・教職実践報告会③(地域こども学科)
	6日	大和鉄道まつり出展(全学) 介護職員初任者研修	1月	21日	サホピコンサート⑥
	7日	介護職員初任者研修		26日	卒業研究発表会(生活福祉コース)
	8日	介護職員初任者研修		10日	給食管理実習報告会(食物栄養コース)
	9日	介護職員初任者研修		11日	学外実習報告会(食物栄養コース)
	10日	介護職員初任者研修		13日	自主的活動評価入試・学校推薦型選抜(公募)・総合型選抜(面談)・社会人入試・外国人留学生入試
	16日	高円の杜 夏祭り出店(学友会)		15日	サホピコンサート⑦
	19日	山の麓サーカス ふろーらむdeおしごと体験(広報ボランティア) 介護職員初任者研修 夢の丘SAHOセミナー「一緒に作ろう～夏野菜親子クッキング」		19日	大人のオープンキャンパス
	20日	第8回オープンキャンパス あそびのひろばプチ「水あそび」		23日	地域こども学科成果発表会(地域こども学科)
	28日	介護職員初任者研修		25日	学長と語る会
	29日	介護職員初任者研修	2月	27日	第12回オープンキャンパス
	30日	介護職員初任者研修		29日	卒業研究公聴会(ビジネスキャリアコース)
	31日	奈良県立磯城野高等学校ヒューマンライフ科 入浴体験実習 人権研修会		3日	生活未来科「生活と未来」成果報告会
				10日	一般選抜・総合型選抜(面談)・社会人入試・外国人留学生入試
				18日	第13回オープンキャンパス
			3月	6日	一般選抜・総合型選抜(面談)・社会人入試・外国人留学生入試
				16日	地域こども学科入学前研修会①
				18日	卒業生HR
				19日	卒業式・謝恩会
				26日	地域こども学科入学前研修会②
				27日	生活未来科 入学前説明会

内容に訂正・変更がある場合は、本学ウェブサイトにて公表します。